



「道草のすすめ」 ゆとりをもって生活を見直してみよう

～校長先生 3学期始業式 講話より～

新年、あけましておめでとうございます。

令和4年が始まりました。今日から3学期が始まりました。短い休みでしたが、どんな冬休みでしたか。校長先生は初詣に行くことができました。昨年とは違い、家族全員が集まってワイワイと楽しい時間を過ごすことができました。残念だったことは、雪のため外出ができなかったことぐらいです。楽しい年末年始となりました。

現在は、オミクロン株という新たな変異株によって、全国的に感染者数が増加傾向にあります。第6波がはじまっていると言われていています。これまで同様、十分に注意を払って感染症対策をしっかりと継続していきましょう。

コロナ禍の中で、昨年は「あたりまえのこと」が「あたりまえではない」ということに気が付きました。「ありがたい」ことであることに気付くことができました。校長講話の中で、「基本のABC」のニューバージョンを紹介しました。「A（あたりまえを）B（ばかにしないで）C（ちゃんとやる）」のコロナバージョンです。2年生・3年生の皆さんは覚えているでしょうか。忘れてしまった人や気になる人は、直接、校長先生に聞きに来てください。

今年の気付きは新聞記事からの紹介です。1月1日の中日新聞朝刊に「道草のすすめ」という記事が掲載されていました。「道草（を食う）」の意味は、皆さん知っていますか。「馬が道端の草を食っていて、進行が遅れる。転じて、目的地へ行く途中で他のことに時間を費やす」ことです。

今の時代は、ICTに代表されるように、効率やスピードが重視される時代です。「合理的な答えについて、目的・目標に向かって最短で到達できるか」ということが求められています。

しかし、そのような時代だからこそ、「あえて遠回りしてみるにより、見えなかった大切なことが見えるようになる」のかもしれないということをこの新聞記事から気付きました。

みなさんは、学校帰りに道草したことはありますか。「学校帰りに友だちの家によって遊ぶ」というようなことは「道草」ではありません。帰り道に「あまりにもきれいな景色に見とれてしまって思わず時間を費やしてしまった」などです。自分の住んでいる身近な地域で、新しい発見をすることができるかもしれません。

コロナウイルス感染拡大の影響で、社会の様相が大きく変化しました。経済が停滞し、社会が疲弊してしまった側面もあります。しかし、コロナの影響によって新しく気付けたこともたくさんあるはずです。その1つが、「損得ではなく、自分の好きな道を歩んでいくという価値観の大切さ」なのではないでしょうか。価値観が多様になっていくことにより、社会に多様性が生まれ、人の数だけ幸せの形がある社会になっていく世の中になっていくと素晴らしいと思います。コロナの影響がきっかけで、結果的に多くの人にとってよい道草になるのかもしれないかもしれません。

SNSなど「インターネット空間での道草」もあるのでしょうか。外出できない状況も少なくないこともあり、「ない」とは言えないように思います。在宅勤務やリモートでの会議など、外出せずに生活することも増えてきました。しかし、SNSだけでは「伝わらないことや伝えられないこと」もあります。リアルでしか伝わらないこともあります。エネルギーや誠実さは、対面でこそ伝わる場面も少なくありません。

この機会を活用して、「スローライフ」や「ゆとりをもった生活」について、一度立ち止まって考えてみるのもよいと思います。3学期もともに成長していきましょう。